

# 平成30年度 第2回 湯沢町都市計画審議会 都市マスタープラン及び立地適正化計画の検討 議事録

## 1. 開催概要

○日 時：平成31年1月31日（木）10:00～12:00

○場 所：湯沢町役場 3階 大会議室

○出席者：委 員）林会長、山口委員、角谷委員、田村委員、赤沼委員、阿部委員（代理）、高橋委員、富井委員、富樫委員  
事務局）地域整備部建設課 森下部長、丸山課長、関参事、青木主事

### ○議題

- (1) 第1回会議のふりかえりと第2回検討会議の内容
- (2) 目指すべき都市の骨格構造の検討について
- (3) 立地適正化計画の誘導方針の検討について
- (4) 立地適正化計画の誘導区域の検討について

## 2. 議事概要

事務局	(開会)
町長	(あいさつ)
事務局	(委員改選) ・ 委員改選に伴い、平成30年12月1日付けで13名の方にご就任いただいた。前回から全員再任ということになったので引き続きお願いしたい。
委員	(前回欠席委員のあいさつ)
事務局	(会長の選任) ・ 湯沢町審議会条例第4条第2項により、立候補される方はいますか。
会長	(委員より立候補)
委員一同	(拍手により承認)
事務局	(以降、林会長が議事を進行する)
会長	(副会長の選任)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立候補される方がいらっしゃればお願いしたい。</li> <li>・いないようなので事務局はどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局としては、引き続き宮田委員が適任と考える。</li> </ul>
委員一同	(「異議なし」の声あり)
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異議なしの声がありましたので、宮田委員を副会長として選任いたします。</li> </ul>

#### (1) 第1回会議のふりかえりと第2回検討会議の内容

事務局	「(1) 第1回会議のふりかえりと第2回検討会議の内容」を説明。
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何かご意見があれば発言いただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回欠席していたので、前回のふりかえりについて述べたい。少子高齢化社会では子どもや女性、高齢者の施策は当たり前で、更に若者を定着させるため、働く場所の確保だけでなく、生き生き生活できる事を考えなければならないと思う。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前はまちづくりの方向性について色々な話があった。特に高齢者の移動手段が大きな話題になっていた。</li> <li>・若い世代に関しては、総合戦略に基づいて仕事や住居の施策を行っているところであるが、現実問題として仕事をする若者が町にいない。南魚沼市にあるハローワークでは有効求人倍率が2倍を超えている。</li> <li>・韓国語や中国語を話す従業員が増えている一方、仕事があっても職種のミスマッチで定住につながらない面もあるようだ。</li> <li>・また、総合戦略では、U・Iターンの住宅手当の制度を作っている。</li> <li>・住民アンケートでは、若い世代が買い物する場所、遊ぶ場所がないと言われるが、これは需要と供給の問題もあるので対応が難しい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人は車を1時間くらい運転するのは当たり前。1時間あれば長岡まで行けるので、それで用が足りている。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の定着については、2年後に総合計画が改定になるのでそこで検討したい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光が重要な産業として認識されている中、私はマンションに住んでいるが、冬場の週末にスキーやスノーボードをするためにマンションを買っている人も多い。私のマンションにはフランスの外資系に勤めている外国人の方が居て仲間を連れてきている。彼女が居れば通訳できるが、彼女がいないと切符を買うにしても言葉が通じなくて、この間は諦めて妙高に行ってしまったという話を最近聞いて非常に残念だった。</li> </ul>

- ・ こうした時に架け橋となってくれる方を徐々に育てて、“湯沢は日本語がわからなくても大丈夫” という風になると良いと思った。
- 会長
- ・ 私は商工会の会長もやっているが、商工会としても7～8年前から、毎年スキーズン前の9～11月に、接客の英会話セミナーを行っているので、今の話は耳が痛い。問題意識はあって、きちんと講習会を繰り返しやっているが、なかなか浸透しない。
  - ・ 最近ではスマートフォンを使って翻訳もできるので、言葉の問題は解消してきている面もあるが、努力は続けたい。
- 委員
- ・ 旅館関係でも外国の方が泊まれる場所と、泊まれない場所があって言葉の問題を感じたという話も聞いた。
- 会長
- ・ 駅の案内はどうか。
- 委員
- ・ 中学の英語レベルでコミュニケーションが取れている。切符を買うとか、どこへ行きたいなど、使う言葉が決まっているので最近はその程度ストレスを感じずに対応できていると思う。ただ、かゆいところまでコミュニケーションが取れているかと言えば、できていないのが現実である。
  - ・ 駅でもポケトーク(注)を使い始めていて、英語圏以外の方だと自分でポケトークを持って来ていることもある。  
(注：ポケトークとはソースネクスト株が販売する手のひらサイズのAI翻訳機。)
- 委員
- ・ 駅の中のビジターセンターや観光協会に行けば、外国語ができる方が居るはずなので教えてあげてはどうか。
- 委員
- ・ 今度の土日に10人くらい来るそうなので伝えてみる。
- 会長
- ・ 過去に案内看板やパンフレットの外国語対応は行っているが、人のトレーニングは完璧とは言い切れないので、今後商工会でも少しずつやっていきたい。
  - ・ 湯沢町は看板等の外国語対応に関しては、新潟県内でもいち早く実施している。看板の設置数も他の地域よりも多く、視察が来る程であるが、東南アジアの方が増えると、英語だけの対応では十分でなくなっていると思う。
- 委員
- ・ お客さんともお互いに通じ合おうという気持ちはあるが、なかなかコミュニケーションをとるのは大変である。
- 会長
- ・ 公共交通を専門にしている方と立ち話をする機会があって、その時に聞いた話をお伝えしたい。
  - ・ 新潟県には、コミュニティバス等を走らせている自治体への補助があり、湯沢町

も当初は路線バスを活用してコミュニティバスを走らせるという案もあった。実際は福祉バスという形で運行している。利用者は少ないが、アンケートを取ると路線を増やせ、便数を増やせという声が多くみられる。

- ・利用率が低いのは行政も反省しなければならないし、住民も反省しなければならない。行政側としては運行時間が悪いのか、路線が悪いのか、何が原因かをもっと把握する必要がある。
- ・住民は普段 100%に近い状態で自家用車に乗って移動しており、元々公共交通を利用する習慣が無いのに、高齢者になったからといってバスを利用するようにはならないだろう。公共交通の利用を誘導するために、例えば、ノーカーデーの実施がある。2か月に1回程度の頻度でやって、その1週間はできるだけ自家用車に乗らずに公共交通で生活をしてみる。それが将来的に公共交通を利用する動機付けになるのではないか。
- ・まずは役場の職員が見本を見せることでの呼びかけが必要だと思う。1週間連続が無理でも、週に1～2回やる等、面白い取り組みだと思う。環境省の取組みにもある。

## (2) 目指すべき都市の骨格構造の検討について

- |     |   |
|-----|---|
| 事務局 | 「(2) 目指すべき都市の骨格構造の検討について」を説明。   |
| 委員  | ・資料3ページに観光交流拠点の位置付けがあるが、骨格構造図の中には示されていない。町としてどのようにお考えか。                       |
| 事務局 | ・市街地の将来構造図では市街地にあたる駅周辺が観光交流拠点となる。町全体で見ても各地域に観光資源があるので、個別の将来構造図の作成時に位置づけを検討する。 |
| 委員  | ・6つの地域拠点が設けられているが、各地域の現時点の人口はどれくらいか。  |
| 事務局 | ・資料の5ページに各地域の人口を載せている。  |
| 委員  | ・町の現況は誘導方針の図の通りになっていると思うが、この説明は現況を説明したものか。それとも現況に対して更に進めていこうという事か。            |
| 会長  | ・現況を踏まえた上での将来像の設定であると思うが、“こうしたらいい”というご意見があれば出していただきたい。                        |
| 事務局 | ・今後、立地適正化計画の中で事業を行う上で、現況を踏まえた都市構造を参考にしながら事業を行っていく。                            |
| 会長  | ・民間の施設だと、スーパーなどは将来的に近隣の店舗と統廃合される可能性がある  |

る。湯沢町が対象になるかはわからないが、統廃合が現実に行きれば現況からかなり変更になることもあるのではないかと思います。

### (3) 立地適正化計画の誘導方針の検討について

- |     |   |
|-----|---|
| 事務局 | 「(3) 立地適正化計画の誘導方針の検討について」を説明。   |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 空き家の件数が出ているが、空き家の定義はどのようにしているか。また、空き家率がわかれば教えていただきたい。</li></ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 空き家に関しては総務管理課の方で調査しているので、確認の上回答する。各町内会で空き家状況を挙げてもらって、それを基に生活実態があるかを調査した数字だと思う。</li></ul>  |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 対象は戸建てか。</li></ul>  |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 基本的に戸建てである。</li></ul>   |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 平成 16 年に中越地震があった頃、私は長岡に居たが、当時の長岡の駅長の話である。</li><li>・ 当時は山間部にかなりの一人暮らしの老人の方たちが住んでいたが、雪下ろしもできないし、どうしようという状況があった。中越地震の後、駅長は山間部の方達が長岡市街に出て来て、小さな医院やスーパーに近いマンションへ住むようになるだろうと言っていた。長岡市街がその後どうなったかわからないが、そういうきっかけがあると、誘導しなくても意外とそれに近い形になるのかもしれないと思った。</li></ul> |
| 会長  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 空き家調査の結果がまとまるまでは、私もそう思っていたが、一番中心市街地に近い湯沢地区の空き家の件数が多くてびっくりした。中心市街地に空き家があれば、そこに移住してくる人が居るかと言えば、なかなかそうは行かない。色々な要因があるが、日本の場合は中古木造住宅の流通が少ない。買う人がいない。国内のマーケットが無い。</li><li>・ 空き家以外の更地を入れると倍近くになるのではないか。</li><li>・ 湯沢地域の福祉バスに乗ってみたか。</li></ul>                  |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 誰も乗っている人がいないときに乗った。普段も、乗っている人はほとんどいない。</li></ul>  |
| 会長  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 福祉バスの運行ルートと時刻表をもらったが、保健医療センターに一番近い所でも約 30 分乗らないと保健医療センターに行けない。</li><li>・ 福祉バスもこれから検討しなければならない。</li></ul>  |

- 委員
- ・福祉バスは保健医療センターに行く専用のバスなのか。時刻表を見ると役場に来ようと思っても帰りの時間のバスがない。
- 会長
- ・基本的には保健医療センターに来る方の利用である。
  - ・前回も話があったが、役場に来るのが高齢者にとって一番不便である。役場の行政サービスも町民課だけでも公民館とかに窓口があるべき。郵便局、銀行、病院は全部、駅の東側に集中しているが、なぜか役場だけぽつんと離れている。住民票をもらうだけでも不便である。
  - ・福祉介護課の話を聞いていると、湯沢地域のバスは別として、他の地域のバスは、一応病院の外来が主目的で来ているが、買い物や床屋など用事をして、帰りは路線バスで帰るといふ方も三俣や土樽地域の方には多いと聞いた。
  - ・湯沢地域の福祉バスに関しては帰りもルートが1本なので、これを逃すと大変。この地域はライドシェアの社会実験なども入ってくると良いと思ったが、この間も国交省の方が言っていたが、社会実験の認可申請をしても可能性はゼロのようだ。自動運転で無人のタクシーでも運行できるというが。
  - ・福祉バスのルートや時間を町全体で再検討したほうが良いのではないかという気もする。
- 委員
- ・どこでも降りられるのか。
- 会長
- ・十日町市で一部やっている。そのほか色々な所で取り組まれている。
- 委員
- ・ある都市で、乗る場所は決まっているが降りる場所は目的地の近い所で、という方法を検討したことがあった。その時は紛糾して最後にどうなったかわからないが、どこでも降りられるというのと、とんでもない場所に停めようとするお客様もいて、ドライバーが危ないのではないかという事で収集がつかなくなった記憶がある。
- 会長
- ・福祉バスや市民バスなど呼び方は色々あるが、南魚沼ではバス会社に委託して運行している。十日町ではタクシー会社が運行していて8～10人乗りのワンボックスで車両も小さかったと思う。どちらが効率的で費用対効果がどうなのかはわからないが。
  - ・委員は視察に行かれたと思うが、上越の牧地区や十日町の川西や津南では、除雪ができない高齢者を対象とした、冬場だけ移住する共同住宅がある。12月～4月半ば頃まで家賃1万円プラス光熱費くらいで、台所が共同のシェアハウスみたいなものを行っている。
- 委員
- ・私も議員になってちょうど20年が経つ。振り返ると自分が議員になった時に課題を持っていたが、この20年で町の様子がたいして変わっていない様に思う。

- ・ そうして見ていくと、概ね 20 年後を見据えた計画という事で、この立地適正化計画にある誘導方針が実のあるものになってほしいと思うが、人口の問題や若者の就労対策などは、今も手を打っているところであり、基本的なまちづくりがしっかりしていないと、移住定住にも繋がらないと思う。
  - ・ なので、町として立地適正化計画にどこまで真剣に取り組もうとしているのか、また、ゾーンを決めた中で新たな事業計画があるのか、町の姿勢について聞きたい。
- 事務局
- ・ 事前に考えがあつてという事ではなく、まちづくりの大枠で検討をしている。ただ、委員がおっしゃった様に、主水公園や駅周辺の今回都市拠点として特に位置付けているものを整備して行くことになり、整備によってにぎわいを創っていくことが町全体として大きなウエイトを占める。
  - ・ これから新たに作る計画なので、重点的に今後詰めていかなければならないと考える。
- 委員
- ・ 20 年間の目標を設定して町もそれなりの考えを持った中で取り組むものと解釈した。20 年先の町の方向性をしっかりと出していくことになるので、町としての考えを持つ必要があると思う。
  - ・ 移住定住など町が進めている事は悪いことではないが、国の統計によると、2 千～3 千人の小さな自治体では移住定住が増えている。また、人口 3 万から 5 万人位の都市機能が十分に備わっている自治体も移住定住が増えている。そういった人口規模から見ると、湯沢町は中途半端な位置にある。
  - ・ まちづくりの基本がしっかりできて、住んでみたい町にならない限りは、移住定住は多くは望めないと思う。
  - ・ 湯沢町は役場周辺を中心部を核として、山に住みたい人も、農地に住みたい人も、色々な人が住めるエリアがあるので、その辺りを明確にして取り組む必要があると強く思う。
- 会長
- ・ この 20 年で何が変わったかと言うと、駅の東口を中心にシャッター通りになり、空き家が増えた。
  - ・ 商工会にはインキュベーションセンターという起業の支援センターがあつて、お陰様で登録者が 40 人を超えてきた。その中の約半数は起業・創業したいという方で、これから創業したいが不動産がない、拠点が無いという方もいる。
  - ・ 私が総合戦略に今後組み込んでいきたいと思っていたのが、空き家を起業・創業の拠点として借り上げてリフォームする事業である。
  - ・ 委員がおっしゃった様に、U・I ターンをして起業・創業する人達に対して、やはりある程度条件を手厚くしてあげることが、働きたい人を増やすことに繋がると思う。単にお金を援助して終わりではダメだと思う。
- 委員
- ・ そういったことを総合計画に盛り込んでほしい。

- ・ 湯沢町の観光施設や都市計画は継続してやってきた。昔は観光に力を入れてやって来たが、今は事業を起こして観光施設を造るという事は全くなかった。やはり、町全体で取り組まなければならない。
- 会長
- ・ 防災、災害の関係者もこの場にはいないがどうか。
- 委員
- ・ 駅の西側一帯はイエローゾーンになっていたと思うが。
- 事務局
- ・ ほぼイエローゾーンである。
- 会長
- ・ 東口の方もかなりイエローゾーンがある。
  - ・ 宿泊業として観光交流ゾーンについて何かあるか。
- 委員
- ・ 絵ではいくらでも描けるので、この中をどうするかが問題である。問題は、一つ一つをどのように作っていくかが大事である。
- 会長
- ・ 主水公園についてはどうか。
- 委員
- ・ どうやったら交流ができるかがポイントである。今、西側は飲食店や旅館がいっぱいあって交流ゾーンという形になっている。交流ゾーンとして位置付けるに当たって、何が欠けていて何をしなければならないのか、なぜ観光交流人口が減っているのか。その原因として湯沢の特色が出ていないという事がある。
  - ・ 訪れてよし、住んでよしのまちづくりをしよう、というのが国の大きな方針で、それに向かってどうやったらいいか、というところがゾーニングに繋がると思う。
  - ・ 景観委員会を15年くらいやっていたが消滅してしまった。委員会で色を全部決めたアーバンサーティー計画という素晴らしい計画だったが頓挫してしまったので、どこまで実現してどうなったか、という検証が無い。反省してから次のステップに進むために検証が必要である。
  - ・ 以前、学校跡地の公園事業のプレゼンがあった。体育館を残して避難所にするという事であった。あの先はどうなっているのか。
  - ・ 主水公園は観光交流ゾーンだと思う。温泉通りの中には、地域と観光に来たお客様が交わる場所が一つもないと思う。公園事業のプレゼンの時にも話をさせてもらったが、生きていないと思った。
- 委員
- ・ まさしくそうだと思う。湯沢の町は意外と観光客と住民が交流する場所がない。委員の言われた通り、主水公園は町の中心部にあり、線路から東側の一体のエリアを今後どうしていくかという事が非常に重要だと思う。町が誘導するのであれば、ある程度基本的な部分がないと議論しづらい。
- 会長
- ・ 都市計画審議会はゾーニングに近い部会。



- ・まちづくりの根本にかかわる部分は、総合計画を10年計画で作って、2年前にも中間見直しをやっており、そこで作業している。
- 委員
- ・私も総合計画の委員に10年間入っていた。計画の中に言葉が入っても、実際に何もできていない。
  - ・最近では10年の計画だと5年で1回検証するようになって、一つ一つのセクションに対してどうなっているか、という検証ができるようになってきたと思う。
- 会長
- ・主水公園は先程話があったように、交流拠点として整備する計画が進んでいるのか。
- 事務局
- ・立地適正化計画をまとめ、その中で重要な施策に位置付けて早めに事業に着手したいと考えている。
- 事務局
- ・非常に事業費がかかるので、なるべく色々な要素を取り込んだ中で事業を進めていきたい。そこで、交流拠点として重要なポイントがここにあるので、速やかに事業化したいと考えている。
- 会長
- ・部署が違うと思うが、防災対策はしっかりしてほしいと思う。
- 委員
- ・今の限られた情報の中でゾーニングしていただいて、今時点では悪くないかな、こういうものかな、と見ていた。
  - ・観光交流ゾーンは駅の西口にしか設定されていないという中で、東口を含む駅前広場の周辺をどうするか。駅の東口は、特にウィンターシーズンは観光客が多く、土産店や飲食店が多少はあって、交流ゾーンとしての基盤があると思う。東口の駅前広場や商店街をどういう風に位置付けて行くべきか。今後は観光交流ゾーンとして位置付けるという考え方もあると思っている。私は職場も住居も東口にあるので主に東口で動いているが、西と東の差が気になる。西口は栄えている一方で東口が静かな印象である。駅の拠点性を強くするには、東口をどう扱っていくのかを議論する必要があると思う。
  - ・もう一点は、資料6ページのゾーニング図で駅周辺、湯沢と神立を主にゾーニングしているが、ゾーニングすべき地域はそれだけなのか。岩原や中里のゾーニングはどうするのか。ゾーニングすべき地域の考え方はどうなっているか。
  - ・都市計画区域の用途地域のコアな部分をゾーニングしているが、今後のまちづくりを考えた上で、これが全てではないと承知しているが、岩原や中里の位置付け、観光に対する位置付けはもちろんのこと、宿泊業や一般住民の方の需要等を踏まえてエリアを広げるという考え方もあるのではないかなと思う。
  - ・駅前と神立地域をどうするか考えていく中で、土樽や三俣、三国地域などとの関係をどう考えているかもわからない。6ページの図は湯沢と神立しかないが、湯沢と神立を考えていく上では、その他の地域も踏まえて、都市機能誘導区域を考

えるべきではないか。湯沢と神立、三俣、三国等、それぞれの現況と将来 20～50 年後を踏まえた上で、湯沢と神立の考え方を広げていく方が良いのではないかと  
思う。

- ・ 先程、委員から話があったが、立地適正化計画はすごく重要な計画だと思っているので、雇用とか福祉、観光、若者の移住定住といった、色々な話が出ている中での基盤となる計画だと思う。そこをしっかりとリンク付けて考えるため、総合計画や他の計画の検討状況を見ながら進める、より具体的な議論ができると思う。今後の計画をしていく上で、しっかり立地適正化計画をにらみながら進めていく必要があると思う。
- ・ 公共施設総合管理計画もゾーニングや次のページ以降の区域設定にも大きな影響を及ぼすのではないか。これからの公共施設の集約、統廃合によって駅周辺に拠点を作るのか等、将来像に関わるので、考えながら進めるべきだと思う。
- ・ 広域連携軸については、定住自立圏を形成して南魚沼市と施設の連携が図られていると思うが、今後も南魚沼市に対してどんどん行政機能を依存するのか、それとも、これからは湯沢町だけで自立していくのかが、ゾーンの描き方、広域連携軸の太さ、強さに関わってくると思う。
- ・ 身近な話だと、今、公民館にある図書館をよく利用している。小ぢんまりとして使い易くはあるが、南魚沼市の六日町駅前に大きな図書館がある。財政的な事情から施設を集約するという事であれば、湯沢町の方は六日町駅前の図書館を使うという考え方もある。今は図書館を例に挙げたが、他の施設もそういった考え方が出てくる。隣接した自治体との連携や、駅前のゾーニングや拠点施設の配置によって変わってくるので、その辺もこの計画や施設管理計画で議論してほしい。

会長

- ・ 東口のゾーニングは、もう少し考え直した方が良いかもしれない。
- ・ 東口は今、かなり不動産が動いていて、実際にオープンする飲食店もある。ゲストハウスに外国人の方が出入りしているのも見かけるので、そういった面では、少しずつ東口も人の流れが変わってきている。東口に関しては、観光交流ゾーンをダブらせて描きなおすか、再度検討が必要である。

事務局

- ・ 検討する。

会長

- ・ 主水公園の位置付けもあるし、駅自体の位置付けをどうするか、東西を含めてどんなゾーニングになるか再度検討する。
- ・ 東口のロータリーの運用を変えるだけでも人の流れが変わる可能性もある。

#### (4) 立地適正化計画の誘導区域の検討について

事務局

「(4) 立地適正化計画の誘導区域の検討について」を説明。

会長

- ・ 資料 9 ページの自転車、徒歩とあるのは、国の基準か。自分で自転車に乗ってい

るが、湯沢町では電動アシスト機能の自転車でないとは非常に厳しい。冬は当然ダメだし、自転車は外した方が良くもしいない。

委員

- ・土砂災害特別警戒区域を除くというのは、砂防事務所としてはありがたい。的確な判断をされていると思うが、災害の安全、安心は非常に重要だと思うので、土砂災害だけでなく川もあるので、その辺りのハザードマップも意識した方が良い。全部意識すると居住できる場所が少なくなるかもしれないが、濃淡をつけながら区域設定の判断をすると良いのではないかと。
- ・先程コミュニティバスや福祉バスについて、好きな所で乗り降りするという話が出たが、今後の公共交通の運用形態はどうなるかを想像すると、今回はバス停から300mを基本に考えているが、将来的にはバス停自体が意味をなさなくなり、バス停を基準に決めても意味がなくなるのではと思うが、やむを得ないとも思う。
- ・先程の話と重なるが、居住誘導区域の設定範囲がバス停を基準にしているが、8ページの図を見ると他の地域を周るバス路線もあるので、居住誘導区域の決め方がこれで良いのか。さっきのゾーニングの決め方、範囲のあり方もそうであるが居住誘導区域もこれで十分か、精査していただきたい。
- ・誘導区域という事は、まさに誘導するという事であるが、どのくらいのスピード感で、どんな手法を使って誘導するか、意識して区域を設定する必要がある。具体的にどの辺に住んでいる、どういう人たちを誘導するのかを意識して区域設定されているのか。今の誘導区域は現状追従型で、現状は空き家もある中で区域内にかなりの人が住んでいる。ここは間違いなく居住誘導区域になると思うが、先程の公共施設の統廃合等、今後のあり方を見据えて、どの地域の人がどうなると施設の統廃合が進むか、財政的な面で良い影響を与えるかを踏まえると、居住誘導区域の設定をロジカルに説明できるのではないかと。本当は居住誘導区域というのは駅前の設定もあるべきだし、点在しても良いと思う。他の湯沢町と似ているような自治体の事例も参考にすると良いのではないかと。
- ・これを公表した時に、岩原や中里などの遠くに住んでいる方達にとってどんな見え方になるか気がかりなので、行政としてどういう風に誘導していくかを併せて決めておいた方が良い。そうでないと、絵を描いただけで現実的でなくなってしまうので結果的に誘導できず、自然のスピードで郊外に空き家が増えていくという推移を見守るだけになって、誘導にそぐわなくなる可能性もある。

会長

- ・誘導したい場所に一番空き家が多い状況である。東京の様な10分に1便バスが来る所とは違うので、本当に今のバス停を基準にして良いか難しい所である。午前中に1本、午後1本あるかないか、というバス停を基準に300mというのは考えた方が良くもしいない。

委員

- ・私もそう思った。本当は、市街地の中をループするバスルートが無いとうまくいかないのではないかと。
- ・先程会長がおっしゃった通り、今は若い人は車で移動しているが、運転ができません

	<p>なくなった場合にバスを利用している人が少ない状況でどうするのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家に関しては、他の地域から湯沢に来る方に住んでもらうという考え方もあるが、私は神立高原スキー場のあたりに住んでいるが、年をとってから湯沢に移ろうと思わない。自分の敷地を広く持っている人が多いので、建ぺい率が厳しい市街地に出て来たくないだろう。町外から来る場合は良いかもしれないが、町内の田舎の方から市街地へは、土地が狭くて嫌だと思う。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他にあるか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘導する施策を打つために誘導区域を設定しているのか。誘導の対象者は移住者か、町内の誘導区域外の方か、どこに住んでいる人を想定しているか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2ページ右側の下の方に居住誘導区域と都市機能誘導区域の概要と、定める内容を記載している。居住誘導区域における市町村の施策の例としては、まちなか居住への助成や公共交通の確保がある。都市機能誘導区域では、都市機能施設のハード面、ソフト面からの支援・誘導がある。公的な立場で言えば、区域から機能が出て行かないようなエリアを作ることとなる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町としてはそういった誘導施策を行って、コンパクトな町を作っていきたいという考えがあるだろうが、必ずしもそういう人ばかりではない。委員が言われるように、周りに干渉されない場所に住みたいと思う人も、広々した場所に住みたい人も居るので、中心部ばかりで良いのだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立地適正化計画は、用途地域指定区域内を対象に定め、その他の岩原や中里、三俣、三国に関しては、都市マスタープランで定めることになる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の位置付けは同じだが、法的に違うので使える施策は変わる。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住誘導区域を示した青い破線の中に、最終的には居住を誘導したいという事であるが、たまたま私はこの辺りに住んでいるが、誘導区域でない所にお住まいの方にとっては、この計画が出されたときに計画を見てどう思うか、気を付けなければならない。</li> <li>・町の為に動かないと、と思う気持ちもあるが、今住んでいる所に住み続けたいという話も最近よく聞くので、反応が心配である。</li> <li>・誘導区域に100%の人に居住してもらうのが理想ということか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住んでいたところで死にたいという考え方もあるので100%居住誘導は難しいと思う。</li> </ul>

- 事務局
- ・ 強制できない事である。
- 委員
- ・ 3 ページにある全町内の構想図を受けて、市街地の検討に入っていることが説明できるし、都市マスタープランを今後策定するので、区域外のことはそちらでやって、あくまで立地適正化計画の対象は市街地という事。
- 委員
- ・ 町全体を見た中で、この部分を対象とした流れがわかるようにすれば良い。誘導区域の出し方に工夫が必要である。
  - ・ 強制的に居住を集めるというイメージを持たれないように、緩い形で誘導するという事を説明する。
- 事務局
- ・ 20 年後を見据えて空き家の解消など、緩い誘導をしていく考えである。
  - ・ 周知の仕方は配慮したい。
- 会長
- ・ この区域に実際に町内の 90% の人を集めたらコスト的には助かるだろう。
  - ・ 他になければ、これで終了させていただく。
- 事務局
- ・ 次回は 2 月の終わりか 3 月の上旬までに開催を予定する。
  - ・ 本日の議事録は、まとめ次第、町のホームページに公開する。
  - ・ 資料についてもホームページで見られるようになっている。
- (閉会)